

幼稚園の懷舊を辿りて (二)

望月くの子

二 大阪最初の保育

私の耳に聴き傳へて居たことのみを記しますから誤りと足らない處は何卒どなたでも御遠慮なく御訂正御補足下さいませ。

明治十一年六月大阪府から東京女子師範學校の幼稚園保姆練習科へ選抜派遣されました木村末、氏原銀子の兩名は、(當時東京女師の校長は中村敬宇先生、幼稚園監事は關信之先生、保姆は近藤濱子、豊田夫雄子、松野クララの三先生であつたと記憶致します)一生懸命に勉強して居られました。明治十一年一月木村氏のみ其事業を終へ、氏原氏は妊娠の爲半途退學して歸阪されました。しかし、氏原氏は木村氏と共に大阪最初の幼稚園の

取調べを命ぜられましたので、明治十二年五月大阪府立模範幼稚園(大阪中の島常安町)の開園式を舉げられました。當時幼兒數四十八名、之を二組に分けて木村、氏原兩氏が擔當保育せられました。(木村氏は一年にて退職)模範幼稚園では保姆の養成(六ヶ月)もしました。當時の保育は

會集 遊戲(自由遊と室外とする共同遊戲)
積木 圖畫(自由畫、筋引きの石盤畫)
文字 板排べ 箸排べ 環排べ(別々に用ふ)
以上午前
午後は手技で土産をつくらせ持ち歸らすことになつてゐました。
その頃第二恩物も用ひました。説明したりコマ

にして廻したりしたのです。自然接觸の爲には幼
兒一人に半疊敷位の畠を作らせいろ／＼植ゑまし
た。掛圖は修身話（ワシントン櫻の話等）庶物話
のもありました。文部省から衣食住の糧を出版さ
れまして皆勤者の賞與にしました。遊戯唱歌は前
號氏原氏記載の外民草、風車、冬燕居と花見の駒、
造花の妙、河水等でありました。

花見の駒(1)かすみたる柳けぶりてひばりなきすぐ
草花さくこの時はたゞにすぎさじ飼ひ置ける甲
斐の黒駒引きいてゝいそぎくらおけ朝つゆをひ
づめにかけて行く方のつゞく梢に香をとめてあ
はだつ雲は櫻花さきも残らず

(2)ちりもまた始めぬほどのみさかりにめでたき時
をいかなれば空とぶ雁はかへり見る心もなくて
うちつれてかへりゆくらむ我土地はこの花の香
を袖にとめたもとにしめて木の下にいざおりた
ちて諸共に心ゆくまで遊びくらさむ。

(3)夕ばえの花にわかるゝ家づとはかたみにつめる
すみれさわらび

造花の妙 天にます妙なる神のめてたさはいふよ
しもなしもえいづる草ものどかに花鳥の色香あ
かしき春くれてたちばな香るのきの月入りはて
もせず山の端の松間の紅葉そめはへて雪おもげ
なるなよ竹に雀もむれて遊ぶなりかゝる恵みの
盡させぬはわが世のともものさちにぞありける。

河水(1)かは水のよどみしもせて音たえず流るるが
ごと年月はすぎゆくものかわらわべのたのしき
けふはきのふにて翁がゆめと時の間に移りかは
りて。

(2)たまくしげふたゝびとだに歸りこぬものなしあ
れはいてやなれ學びの道に怠らずゆめ怠らずむ
かふ心の駒にむちうちてたづなゆるべず進みゆ
かなむ

以上の歌は明治十五年頃迄其後は主として三

冊よりなりし我國最初の小學唱歌集を用ひま

した。(かをれにほへそのふのさくらより始まる。)

従つて曲は西洋風になり、歌も現代語に大方はかはつて參りました。

以上の保育は大凡明治廿六年春の頃まで續いたと思ひます。

明治十三年五月頃東區内有志者の主唱で愛珠幼稚園が設立されました。これは大阪に於ける大阪市の公立幼稚園の第一と思ひます。

明治十四年十月十三日、府立模範幼稚園の擴張に伴ひまして、氏原氏を師として西區江戸堀幼稚園に四十餘年を勤められた膳たけ子と、小谷春枝が見習ひ保母となられました。(膳氏のことは已に世に隠れなき我國の保育功勞者であります。小谷氏亦膳氏を助けて今日あらしめた隠れた功勞者であります) 氏原氏の月給は十五圓膳氏は五圓で

あつたと聞いて居ります。

明治十六年七月十五日、模範幼稚園は經濟の都合で廢園の憂き目を見ることになりました。實に残念なことですので、生徒の父兄中有志者十名の發起で、二百圓で模範幼稚園の器具萬端を買収しました。十一月廿三日私立中洲幼稚園を設立されました。家屋は無償であつたと思ひます。其時の保母は氏原氏と膳氏とでありました。幼兒の保育料廿五錢(月)五十人を收容して居りましたので、収入僅かに十二圓五十錢、兩氏は殆ど無給で働いて居られました。

(氏原氏が東京で求め來られました一生懸命の額は廢園の當時入札で、愛珠幼稚園の手に落ちました。今も猶保管されてあることゝ存ます。)

明治十七年二月時の文部大臣は大木喬任氏と思ひますが、結構な法令を御出し下さいました。其

大意は六歳未満の子供は、小學校に入るゝことが出来ないといふことでした。夫迄幼い子供で小學校へ入つて居つたものが學ぶ處が無くなりましたので、自然幼稚園の必要を生じ、幼兒教育勃興の論を拓くことになりました。

(明治十二年頃鹿児島縣に幼稚園が出来ましたこれが模範幼稚園に次ぐ我國での第二の幼稚園だと思ひます)

されば各府縣で幼稚園の設立を思ひ立ち、大阪の幼稚園では、參觀人の絶え間がありませんでした。

明治十七年公立北區幼稚園設立の議決せられ、私立幼稚園を全部買収せられました爲に、模範幼稚園廢園の時の二百圓は有志者に返戻しましたが場所は従前の處でありました。

北區幼稚園では、保姆の養成を致しまして卒業の上は、北區各小學校幼稚科の保姆となりました

十八年三月西區に公立幼稚園を設立され、氏原膳の姉妹は始めて分れ、膳氏は西區幼稚園に勤務此處でも保姆の養成をなさいました。

(北區幼稚園は若松町に、西區幼稚園は江戸堀南通り四丁目に新築されました。)

十九年五月には高臺幼稚園同九月には、浪華幼稚園等大阪市内に幼稚園設立の氣運大に起り、大概小學校の附設で、幼稚科又は幼稚保育科と云ふたと思ひます。府立女子師範學校附屬幼稚園もたしか十八年四月頃中ノ島に再設されたと存じます(大阪の方々から其邊のことを御訂正御記載を願ひ上げます)

愛珠幼稚園では、東京女子實習科出身の長竹くに子氏熱心にあつとめなさいましたが、十八年東京に歸られ、其後春田たか子、伏見柳子氏を経て現今の稻葉うめ子氏に到つたと存じます。三十三年四月一日現今の園舎新築福羽美靜氏作の歌を添

へて、當時の三市聯合會雜誌に記されてゐます。

我國第一壯觀の園舎だつたと存じます。

南區御澤幼稚園設立の年月は忘れましたが、保姆又は園長として骨を折つて下さつた方は、小笠原松枝、大村和子、奥野うさ、大倉はな、小山秀子を経て、再び田村好子(大倉氏改姓名)氏になつて今回退職されました。

船場幼稚園も設立の年を忘れましたが、大江すみ子、小山駒江、今田しん、八田さた氏等を経て現今の金谷ます子氏になつて、久しく御盡力下つてゐます。現今の鐵筋の園舎と舊時を比べれば隔世の感があります。

(其他の園のことはよく覚えませんから、間違ひが多いと存ますので省略いたします。どうぞ夫れ々御記し下さい)

明治廿六年三月、西區も北區も區立を廢し、聯合町の負擔となりました。中にも西區は經費縮少

九人の保姆は僅かに一人となり、其一人の膳氏は月給十三圓でした。幼稚園舎は高等小學校に取られた爲、戸長役場の一室で十七年間辛抱なさいました。幼稚園窟といはれてゐました。四十二年に新築されました。

(三十四年の頃と思ひます、私が兵庫幼稚園を去らんとして後任に困り、大阪に行き膳氏にあひ、餘りのあはれに十三圓より廿七圓の方が増してすし、園舎も少しはよろしいと存じます) 御轉任になつては如何ですと申した時、膳氏は、私は轉ずることはイヤです。辛抱して一旗挙げますと云はれ、大に赤面をしたことを思ひ出し、今以て面目ないですがざんげ致します。其時私は家族に制肘されぬ氏を羨みました) 北區の方は西天満小學校の中に轉じました。

(氏原氏の經歷書を見るに、其時西天満の幼稚園設立の爲、町會議員十五名の家へ一々頭を下

げて頼みに廻つた時の苦しさを士族出の氏は、痛切に感ぜられた様です。しかし其爲先きに私立てであつた幼稚園が公立になつたことを喜び、其恩義を感じ、これが即前の模範園の命脈なのを思ひ、利己の爲他に轉ずるを思はず、減俸を快諾されたので、區長も感心されたと記されてあります。因に其頃の氏原氏の生計は實に苦しく一家を負擔し、長病の祖母を看護し（祖父の後妻）見送り困窮を極められ、膳氏は自分の収入の半を割いて助けられたことあり、困苦の中に節を守り、愛兒と愛妹を育てられ、膳氏亦義弟教育の爲に盡くされた斗りか、終生物質に拘泥せず、精神的に斯學に盡されたことは實に揃ひも揃ふた姉妹と敬服してゐます）

一方廿六年四月、他の區に於ては小學校の附屬の幼稚科は續々獨立の幼稚園となつたと思ひます。終りに

大阪市保育界の爲御盡力下さつた方の中で、特筆すべきは、久しく府立女子師範學校長であつた大村芳樹先生であります。此方によつて三市聯合保育會は生まれ、育てられ、保姆の待遇は向上せられ、眞に大阪市幼稚園の父であります。只今は静岡市外用宗に御住ひになつて、御隱退の身も猶教育の爲に御盡くし下さつて居ります由に承知して居ります。

明治三十二年後の事は、三市聯合保育會雜誌に散見して居りますので省略いたします。